



未来の日本を創る
農業担い人
 THE FUTURE OF JAPAN CREATE

もり なおや
森 直矢さん(25歳) 稲沢市祖父江町

パワフルに成長していきたい

12アールのハウスでイチゴを育てる森さんが農業を始めたのは今年から。担い手としての新たな一歩を踏み始めました。

「実家が植木屋で、土を触ったり、外で体を動かすような仕事がしたいと前から思っていました。本格的に就農を意識したのは大学生の時です。『楽しい場所を作りたい』という思いで自営業を考えていて、農家という選択肢が出てきました」と話します。農業を始めるにあたり相談したのがあまイチゴ組合の鷺野峰生さんでした。「農業に関しては未経験だったので以前からお付き合いのあった鷺野さんの所で修業させていただきました。あまイチゴ組合にもそのつなぎりで入らせてもらいました」。

新規就農を目指す森さんは昨年、JAあいち海部の組合員に加入。当JAの担い手担当部署と連携して就農までの準備を進めました。今年から農家として独立し、11月には出荷を行う予定です。

独立してからの苦労について何うと、自然を相手にすることの難しさを強く感じていると話す森さん。「天候によつて必要な作業が行えないときは農業の難しさを感じますね。あとはやっぱり病害虫が怖い。植えた苗が育って収穫できるまではなかなか気を緩めることが出来ません。一年目はとにかく丁寧に世話をして、美味しいイチゴを実らせたいです」と語ります。「でも、今年無事にイチゴが実ったら収量とか、品



質の向上にももっと取り組んでいきたいですね。毎年行われる品評会での入賞を目標に、先輩方に学んで、追いついて、追い越していけるよう頑張ります。若さを武器に、どんどん成長していきたい」と力強く答えてくれました。

さらに、今後の展望として販売にも関わっていききたいと森さんは話します。「生産者だからこそ分かる視点があると思うんです。自分や先輩方のそういった声が集まればさらにより形でイチゴを届けられるんじゃないかと考えています。何よりも手間をかけて作ったイチゴを消費者の方に美味しく、楽しく食べてもらいたいです」と語ります。

最後に消費者の皆さんへ、「頑張つてイチゴを育てていきます。パワフルなイチゴを実らせますのでぜひ召し上がってください」とメッセージをいただきました。